

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000163		
法人名	株式会社タフティサポート		
事業所名	すいーと上桂 (2階)		
所在地	京都市西京区上桂前田町55-4		
自己評価作成日	平成31年2月18日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2694000163-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成31年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が安心して生活が出来る様に、個性やその人らしさを最大限尊重するケアを心掛けています。
 利用者様の状態の変化にも迅速に対応が出来る様に、看護、主治医とも綿密に連携を図っています。
 認知症ケアや接遇にも力を入れており、施設内での研修や委員会活動も活発に行っております。
 会社としての理念でもある退屈させない介護を目標に、レクリエーションや外出イベントも利用者様の好みや季節に応じ提供させていただいています。
 今後は地域の皆様とのつながりを深め、地域の皆様に貢献が出来る様な事業所運営を目指し、従業員一同取り組んでいきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開所丸3年になる、1階に小規模多機能事業所を併設する、2ユニットのグループホームです。これまでの地域との関係が希薄だったことを見直し、職員の働きかけによる回覧板での情報提供をはじめ、4月からは自治会にも加入することになっており、地域と密接な関係を構築するために鋭意努力中です。職員不足の中、食事の提供は毎月の献立表に沿って、フロアごとに食材の調達やアレンジした調理を行っていますが、時には1階の小規模多機能キッチンで、全フロア分を調理したり、配食サービスに切り替えたりするなど、臨機応変に美味しい食事の提供ができるよう工夫されています。また年に4回程度は、プラス500円で特別食として、すき焼きや入居者の好みに応じての食事提供もしています。本年度に起きた事故を教訓に、「エクセレントハートリング」というゴムリングに、職員公募で決めた「誇れる行動寄り添う心」を印刷し、常時身につけることで、理念の浸透を図っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼により、会社理念の唱和を実践して、常に意識づけできるようにしている。ゴム製のリングに理念を印刷したものを常に身につけ、「誇れる行動寄り添う心」を大切に業務にあたる様に徹底しています。	法人理念、事業所理念をそれぞれ掲示し、職員・来訪者への周知を行うとともに、朝礼時に唱和を行い理念への意識付けを行っています。昨年6月に起きた事故を教訓に、職員公募による理念を印刷したゴムリングを常時身につける事でさらに理念の浸透を図っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との連携は、まずは近隣住民を中心として、挨拶・関わりを心掛けている。自治会への参加を進めています。	現在は自治会への加入はしていませんが、職員の働きかけにより、事業所でのボランティア来訪時の案内を回覧板で告知するなどの活動を行っています。4月から自治会には加入することになっており、地域との密接な関係を作るための働きかけを行っています。	隣の美容室から吹奏楽の演奏に来ていただいたり、飲食店駐車場を利用させていただいたり、地域との密接な付き合いも大切な事です。4月からの自治会加入で地域ぐるみの活動になることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括からの地域会議のお誘いには、なるべく積極的に参加できるよう努めている。地域住民の参加ができるようなイベントを企画していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて施設の現状報告をして、意見をいただきやすい雰囲気づくりを心掛けて、包括・家族・参加者から意見・要望・アドバイスを反映できるようにしている。	運営推進会議は偶数月に実施し、主に入居者と家族の出席になっています。日程が合えば、地域包括職員や民生委員の出席もあり、運営状況や事故の報告、出席者からの意見をいただき、運営に活かすようにしています。	薬局・訪問マッサージ・歯科など外部からの参加も稀にありますが、会議の意義からも、地域包括や民生委員の出席は必要です。また、地域の保育園・小学校・交番などへの働きかけも行ってはいかがでしょうか。4月以降の自治会長の参加にも期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加はまだまだ少ないが、議事録は毎回手渡しにて担当者との連携に努めている。	運営推進会議議事録は役所に出向いての手渡しを行い、顔の見える関係を作っています。2ヶ月に1回の事業者連絡協議会にはできる限り参加し、役所や地域事業者との関係作りにも積極的です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの検討は、その都度行っており、研修も行っている。施錠に関して、玄関は国道沿いという事もあり、またエレベーター・階段は挟まれたり転倒事故の危険性が大きい為、危険回避の為の物で、必要な時には職員同行にて対応している。	昨年度までは、リスクマネジメント委員会の中で行われていた活動でしたが、本年度より新たに、虐待防止・身体拘束廃止委員会を設置し、3ヶ月に一度の委員会活動と年に2回の研修を実施し、職員への啓発を行っています。また、新入職の職員へもオリエンテーションの中で、別途身体拘束廃止研修を実施しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で取り組みのある、管理者研修にて指導を受け、現場の職員への研修に反映できるように努めている。日々の入浴時のポディーチェックも強化できるようチェック表等で管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修にて、職員への理解を深めている。成年後見制度に関しては、入居者の中に制度を利用しておられる方がおられる為、更に理解力を強化できるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間に余裕をもてただける日時に約束をしていただき、丁寧な説明を心掛けております。不明な点がある時は随時対応させていただき事をお伝えさせてもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見に関しては、随時、職員を通して意見が言えるような体制と、家族に対しては、どんな事でも意見を頂けるような雰囲気づくり、または意見箱の設置をお伝えして活用していただけるようにしている。	意見箱は設置しているものの、意見等が入ることは無いようです。年に一度法人による家族アンケートを実施し、その回答を職員に開示して、ケアの質向上に活かしています。また、各種報告などの家族連絡の際に、日頃の様子を伝えるところにも、ご意見などを聴き取る様にしています。	法人による家族アンケートの結果を、職員だけでなく、個人情報に配慮した上で、いただいた意見や、それに対する回答等を家族へ公表する取り組みは、家族意見を引き出す機会増になると思われます。検討されてはいかがでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議・フロアミーティング・委員会等で出た意見、日々の聞き取りの中で出た意見を迅速に対応できるように努め、職員の不安・疑問の解消ができるようにしている。	年に2回の人事評価面談時に職員の意見や要望などを聴き取り、イベントやケア内容、備品購入などへ反映しています。また毎月実施される全体会議・フロア会議で、一人ひとりの職員に話を振り、意見を言いやすい環境づくりに努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価・個人面談だけでなく、なるべく個々の状態を観察して、働きやすい職場づくりを基本として、個々の意見を取り入れていけるよう努めている。他事業所とも毎月ミーティングを行い、福利厚生や労働環境の整備、やりがいを持っていただけるような取り組みについて、活発に話し合いを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の内部研修に関しては毎月行っている。外部研修に関しても、必要と思われる研修は全職員に公表し、研修費の補助についても法人としては積極的に対応をしている。会社独自としても様々なレベルや役職に応じた研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管轄地域の事例検討会等に積極的に参加して、それぞれの成功体験など、自施設での取り組みにつなげていけるような交流ができるよう、職員参加を進めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面談は、なるべく本人の安心できる自宅にて行えるよう心掛けている。そこで顔を知っていただき、また、利用者本人にも、入居前に施設に馴染んでいただけるよう施設見学・他入居者との顔つなぎをしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には、できるだけ、ありのままの施設環境・施設生活を見ていただき、納得・安心して入居ができるようなサポートを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のADLや状態を見極め、家族のニーズに合わせたサービスの提案ができるように、他事業者と連携をとり対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居と共に、一番身近な存在が職員となる事を、また、「入居者が自分の両親だと思ったら、どういうケアをするか」をモットーとして、全職員が認識できるように今後も指導を続けていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は勿論ですが、なかなか面会に来られない家族に対して、日々の施設生活の様子を電話やお手紙にお写真等を添えて、身近に感じていただけるような取り組みを進めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や友人などと、可能な限り面会・外出ができるように支援している。	開設間もないころに、以前から通っていた美容室に出かけることなどはあったものの、ここ最近ではADLの低下とともに近隣で、新たな馴染みの関係を作っています。友人の面会などは家族と連絡を取り合い、支援しています。	職員不足の中、外出支援等が難しくなりつつあるのは承知の上ですが、入居前からの馴染みの関係や場所は、その人にとって大切なものになります。まずは、入居者一人ひとりの生活歴等の洗い出しや把握をされることをお勧めします。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に支障がでた場合は、ご家族様と相談の上、場合によってはフロア移動も検討している。個人の性格・精神的・認知度によって、他利用者との接触を避けなければいけない方もいる為、家族または関係機関への相談をしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了する場合には、必ず「何かあれば、いつでもご相談下さい」「近くにお寄りの際は、遠慮せず遊びに来てください」との声掛けを忘れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを受け止めて聞いてあげる。という事を心掛けている。意思疎通が困難な方でも、家族様からの情報を元に本人様の気持ちをくみ取る努力をしている。	日頃の入浴や排泄ケアなど、個別支援の中でのコミュニケーションを大切にし、新たに聴き取れたことは申し送りノートや、支援経過記録・フロア会議で共有しています。姓ではなく名で呼ばれることが心地よい方には下の名前で声掛けするなど、一人ひとりの心地良さを考えた支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境は入居前の聴き取りは必須ではありますが、入居後の本人様との会話から、新たな情報を得られる事が多い為、常に傾聴するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の変化が見られた時は、フロアミーティング等での話し合いや、緊急を要する場合は専門職も含め、朝礼やフロア職員で迅速に対応できるようにしている。決定した事は申し送りノートに記載して情報の共有を徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様からの聴き取りは随時、介護記録に記載して、家族様からは、運営推進会議や面会時等に意見をいただいている。	計画作成担当者による毎月のモニタリングと、毎月のフロアミーティングの際のカンファレンスで、計画の見直しを検討し、状態変化があった際には都度、特に変化がない場合は6ヶ月ごとに計画の見直しを行っています。往診時の医師からの意見と、診療情報提供票を計画に活かしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事・本人様が訴えられた事は介護記録に記載している。介護記録にはチェック表も合わせて作成してケアの確認ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様・本人様のニーズに対応できる範囲でお応えできるように努めている。特に突発的な要望には臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と一緒にお買い物に行く時は、近くのスーパーやコンビニを利用したり、町内の神社へのお参り・散歩に出かけて地域の中で楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携をとっている林檎原診療所のドクターに月1回の往診を依頼している。緊急時の対応に関しても24時間対応していただいている。	協力医、入居前からのかかりつけ医それぞれのメリット/デメリットを説明の上、意向に沿った医療環境を提供しています。かかりつけ医を継続される場合は、家族協力のもとでの受診支援となりますが、予防接種などは協力医により実施しています。往診は月1回から2回に変更予定で、専門医受診の際には、職員同行も行っていきます。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、1名の正看護師が日常的に状態把握して体調の変化に迅速な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、情報交換をして、個人の状態把握がスムーズにできるよう努めている。日常的にも関わりが持てるような体制を築いていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にはもちろんの事ですが、重度化したり終末期と判断された時は、随時、家族様に家族の意向や今後の方向性を確認して、対応をお伝えして安心していただけるよう努めている。	「重度化した場合の対応に係る指針」「看取りに関する指針」を作成し、入居時に同意を得ています。看取り実績もあり、年間研修計画に基づいての研修や、事業所内看護師からの研修を都度実施しています。看取りに関する定期的な意向確認までには至っていません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成や研修を行っている。実際に緊急時の対応・救急搬送を経験している為、その時の反省点・良かった点等を常に話し合えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署に協力を仰ぎ、年2回の消防訓練の実施をしている。内部研修でも周知させている。	年2回の消防訓練の内1回は消防署協力のもと夜間想定での実施を行っています。また浸水の想定は、1階の小規模多機能から2階へ避難してもらうなどの訓練も実施しています。法人として地域の避難者受け入れをするよう指示もあり、準備をしています。	日常の食材や缶詰などで、3日程度の備蓄になっているということではありませんが、地域住民の受け入れを行う事を考えると、改めて防災備蓄としての検討を行い、適量の備蓄品を準備されることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に適した言葉かけや対応に心掛けています。不適切だと思われる時はリーダー中心となって指導していきけるような体制にしています。委員会活動や虐待防止研修も毎月欠かさず行い従業員の意識や知識の向上に努めています。	入職時の各種研修の中に、尊厳の重視に関する研修を入れ、年間研修計画の中でも内部講師・外部講師による研修を実施しています。不適切な言動を見かけた際には、管理者・リーダーからの個別指導を行い、適切なケア・適切な声掛けができるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いをくみ取れるような声掛け・関わりを持てるよう、日々の観察を怠ることのないように朝礼や申し送りを基本として職員全員に周知している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活を心掛けています。その為には、職員同士の協力が大切だということを朝礼や全体会議・フロアミーティングで発信している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った身だしなみ、または好みを確認して対応している。月1回の訪問理美容を利用する事によって、自身が綺麗になった事を認識していただけるよう声かけし喜びを感じていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のレベルに応じて、配膳の手伝い・お皿拭き等は、積極的に働きかけて、自分の役割を持っていただく。	毎月の献立は法人からの指定がありますが、食材の調達や、献立の変更はフロアごとに行っています。炊飯や汁物は各フロアで作りますが、人員の都合上、1階の小規模多機能厨房で調理したものを配食したり、フロアで作ったり、時には配食サービスを利用するなど、入居者の希望を聞きつつ、臨機応変に対応しています。盛り付けや片付けも職員と一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量は毎回チェックしている。おやつ作りの好きな職員が多い事もあり、手作りおやつも頻繁に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後は必ず口腔ケアを行っている。本人が出来る事はなるべく見守り・声掛けをしてやっていた。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の状態に合わせて、できる限りはトイレでの排泄が出来るような取り組みをしている。排泄チェック表を記載する事で、排泄間隔の見極めができるようにしている。排泄委員会も新たに設定し排泄ケアの向上に努めています。	身体状況により居室でのおむつ交換を必要とする方は1名おられますが、それ以外はトイレでの排泄を行えるよう、排泄パターンを把握し誘導しています。排泄委員会を発足し、その人に合ったパットに変更するなど、自立に向けた取り組みを行っています。下剤を服用せず手作りの寒天ゼリーを提供することにより、排便をしやすくなるよう効果を検証中です。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人の今までの生活歴を把握しつつ、便秘の原因を見つけるように努め、なるべく飲食や体を動かす事により解消できるよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	9:30～15:00までの幅広い時間帯の中で、個々の体調や希望に合わせて気持ちよく入浴していただけるような支援をしている。	概ねのスケジュールを決め、週2回の入浴を基本とし、午前中から15時までの間に入浴してもらえるようにしています。断られた際には、時間変更や職員を変えての声掛けを行い、気持ちよく入浴してもらえるよう工夫しています。二人介助が必要な場合もあり、適宜対応をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルに合わせて対応できるように、今までの生活歴や毎日の様子を確認しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情は、いつでも確認できるように保管しており、解らない事は看護師・主治医・薬剤師に確認できるような体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「退屈させない介護」を打ち出し、職員全員で趣向を凝らしている。作業もその内の一つで、洗濯物たたみ・お皿拭き・ゴミ袋作りは毎日の日課となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自施設周辺には、コンビニ・スーパーが近くにあるため、散歩しながら買物を楽しんでもらう。という支援も行っている。	近隣のコンビニやスーパーへ、日用品や事務用品の買い物に入居者と一緒に出掛けたり、季節ごとに、花見・イルミネーション・紅葉狩りなどの外出を行ったりしています。また正月には自宅へ、日帰り・宿泊の一時帰宅もできるよう支援しています。不穏な状態のときなどは、併設事業所の職員にも協力してもらいながら、外気浴やフロア移動もしています。	職員不足もあり、日常的な外出機会が若干少ないように感じます。年間を通じての個別外出計画を作成して実施するなど、入居者にとっての特別な外出機会になるよう、工夫や企画をされてはいかがでしょうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお金の管理については難しいところもありますが、施設立替金を利用して、お金の所持・使う事の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の要望があれば、家族との連絡の為に電話を使用する事もある。手紙に関しては、出来る方が少なく、2月に1度、職員が各家族に写真やお手紙を送ることを進めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の生活の場。という事もあり、時にはリラックスしていただけるようソファーを利用したり、季節を感じていただく為、その季節の飾りつけをして変化を感じていただく。そういう空間を心掛けている。	日中は消灯していても良いほど、日当たりが良く明るいリビングです。収納上手な職員により、整理整頓・清掃が行き届き、清潔感のある空間になっています。ソファーを用意し、一人ひとりが好みの場所で落ち着いて過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの個性を大切にす為、または友達作りがしやすくなるように、席替えも時々行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく今まで使用していた、馴染みのあるものを置いていただけるように入居時をお願いしている。	入居前に、使い慣れたものや家具などの持ち込みを依頼し、座椅子・仏壇を持ち込まれています。家族写真やお気に入りの物の飾りつけを掲示するなど、安全面に配慮しつつ、個人の好みに合わせた居室づくりを行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な空間にならないように、テーブル・イスの配置は勿論ですが、個々に使用している歩行器や車椅子の置く場所にも配慮するよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000163		
法人名	株式会社タフティサポート		
事業所名	すいーと上桂 (3階)		
所在地	京都市西京区上桂前田町55-4		
自己評価作成日	平成31年2月18日	評価結果市町村受理日	平成31年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2694000163-00&PrefCd=26&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成31年3月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様が安心して生活が出来る様に、個性やその人らしさを最大限尊重するケアを心掛けています。
 利用者様の状態の変化にも迅速に対応が出来る様に、看護、主治医とも綿密に連携を図っています。
 認知症ケアや接遇にも力を入れており、施設内での研修や委員会活動も活発に行っております。
 会社としての理念でもある退屈させない介護を目標に、レクリエーションや外出イベントも利用者様の好みや季節に応じ提供させていただいています。
 今後は地域の皆様とのつながりを深め、地域の皆様に貢献が出来る様な事業所運営を目指し、従業員一同取り組んでいきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階に同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼により、会社理念の唱和を実践して、常に意識づけできるようにしている。ゴム製のリングに理念を印刷したものを常に身につけ、「誇れる行動寄り添う心」を大切に業務にあたる様に徹底しています。	2階に同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との連携は、まずは近隣住民を中心として、挨拶・関わりを心掛けている。自治会への参加を進めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括からの地域会議のお誘いには、なるべく積極的に参加できるよう努めている。地域住民の参加ができるようなイベントを企画していく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議にて施設の現状報告をして、意見をいただきやすい雰囲気づくりを心掛けて、包括・家族・参加者から意見・要望・アドバイスを反映できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加はまだまだ少ないが、議事録は毎回手渡しにて担当者との連携に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの検討は、その都度行っており、研修も行っている。施錠に関して、玄関は国道沿いという事もあり、またエレベーター・階段は挟まれたり転倒事故の危険性が大きい為、危険回避の為の物で、必要な時には職員同行にて対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社全体で取り組みのある、管理者研修にて指導を受け、現場の職員への研修に反映できるよう努めている。日々の入浴時のポディーチェックも強化できるようチェック表等で管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修にて、職員への理解を深めている。成年後見制度に関しては、入居者の中に制度を利用しておられる方がおられる為、更に理解力を強化できるよう努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間に余裕をもてただける日時に約束をしていただき、丁寧な説明を心掛けております。不明な点がある時は随時対応させていただき事をお伝えさせてもらっています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見に関しては、随時、職員を通して意見が言えるような体制と、家族に対しては、どんな事でも意見を頂けるような雰囲気づくり、または意見箱の設置をお伝えして活用していただけるようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議・フロアミーティング・委員会等で出た意見、日々の聞き取りの中で出た意見を迅速に対応できるように努め、職員の不安・疑問の解消ができるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の自己評価・個人面談だけでなく、なるべく個々の状態を観察して、働きやすい職場づくりを基本として、個々の意見を取り入れていけるよう努めている。他事業所とも毎月ミーティングを行い、福利厚生や労働環境の整備、やりがいを持っていただけるような取り組みについて、活発に話し合いを行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の内部研修に関しては毎月行っている。外部研修に関しても、必要と思われる研修は全職員に公表し、研修費の補助についても法人としては積極的に対応をしている。会社独自としても様々なレベルや役職に応じた研修を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管轄地域の事例検討会等に積極的に参加して、それぞれの成功体験など、自施設での取り組みにつなげていけるような交流ができるよう、職員参加を進めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	最初の面談は、なるべく本人の安心できる自宅にて行えるよう心掛けている。そこで顔を知っていただき、また、利用者本人にも、入居前に施設に馴染んでいただけるよう施設見学・他入居者との顔つなぎをしていただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には、できるだけ、ありのままの施設環境・施設生活を見ていただき、納得・安心して入居ができるようなサポートを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人のADLや状態を見極め、家族のニーズに合わせたサービスの提案ができるように、他事業者と連携をとり対応していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居と共に、一番身近な存在が職員となる事を、また、「入居者が自分の両親だと思ったら、どういうケアをするか」をモットーとして、全職員が認識できるように今後も指導を続けていく。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は勿論ですが、なかなか面会に来られない家族に対して、日々の施設生活の様子を電話やお手紙にお写真等を添えて、身近に感じていただけるような取り組みを進めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や友人などと、可能な限り面会・外出ができるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に支障がでた場合は、ご家族様と相談の上、場合によってはフロア移動も検討している。個人の性格・精神的・認知度によって、他利用者との接触を避けなければいけない方もいる為、家族または関係機関への相談をしていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了する場合には、必ず「何かあれば、いつでもご相談下さい」「近くにお寄りの際は、遠慮せず遊びに来て下さい」との声掛けを忘れないようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いを受け止めて聞いてあげる。という事を心掛けている。意思疎通が困難な方でも、家族様からの情報を元に本人様の気持ちをくみ取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や生活環境は入居前の聴き取りは必須ではありますが、入居後の本人様との会話から、新たな情報を得られる事が多い為、常に傾聴するように心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の変化が見られた時は、フロアミーティング等での話し合いや、緊急を要する場合は専門職も含め、朝礼やフロア職員で迅速に対応できるようにしている。決定した事は申し送りノートに記載して情報の共有を徹底している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人様からの聴き取りは随時、介護記録に記載して、家族様からは、運営推進会議や面会時等に意見をいただいている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事・本人様が訴えられた事は介護記録に記載している。介護記録にはチェック表も合わせて作成してケアの確認ができるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様・本人様のニーズに対応できる範囲でお応えできるように努めている。特に突発的な要望には臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者と一緒に行物に行く時は、近くのスーパーやコンビニを利用したり、町内の神社へのお参り・散歩に出かけて地域の中で楽しんでいただけるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療連携をとっている林檎原診療所のドクターに月1回の往診を依頼している。緊急時の対応に関しても24時間対応していただいている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、1名の正看護師が日常的に状態把握して体調の変化に迅速な対応ができるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、情報交換をして、個人の状態把握がスムーズにできるよう努めている。日常的にも関わりが持てるような体制を築いていく。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にはもちろんの事ですが、重度化したり終末期と判断された時は、随時、家族様に家族の意向や今後の方向性を確認して、対応をお伝えして安心していただけるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの作成や研修を行っている。実際に緊急時の対応・救急搬送を経験している為、その時の反省点・良かった点等を常に話し合えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防署に協力を仰ぎ、年2回の消防訓練の実施をしている。内部研修でも周知させている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に適した言葉かけや対応に心掛けています。不適切だと思われる時はリーダー中心となって指導していけるような体制にしています。委員会活動や虐待防止研修も毎月欠かさず行い従業員の意識や知識の向上に努めています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いをくみ取れるような声掛け・関わりを持てるよう、日々の観察を怠ることのないように朝礼や申し送りを基本として職員全員に周知している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活を心掛けています。その為には、職員同士の協力が大切だということを朝礼や全体会議・フロアミーティングで発信している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に合った身だしなみ、または好みを確認して対応している。月1回の訪問理美容を利用する事によって、自身が綺麗になった事を認識していただけるよう声かけし喜びを感じていただく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のレベルに応じて、配膳の手伝い・お皿拭き等は、積極的に働きかけて、自分の役割を持っていただく。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量・水分量は毎回チェックしている。おやつ作りの好きな職員が多い事もあり、手作りおやつも頻繁に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時・毎食後は必ず口腔ケアを行っている。本人が出来る事はなるべく見守り・声掛けをしてやっていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の状態に合わせて、できる限りはトイレでの排泄が出来るような取り組みをしている。排泄チェック表を記載する事で、排泄間隔の見極めができるようにしている。排泄委員会も新たに設定し排泄ケアの向上に努めています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	その人の今までの生活歴を把握しつつ、便秘の原因を見つけるように努め、なるべく飲食や体を動かす事により解消できるよう対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	9:30～15:00までの幅広い時間帯の中で、個々の体調や希望に合わせて気持ちよく入浴していただけるような支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルに合わせて対応できるように、今までの生活歴や毎日の様子を確認しながら対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情は、いつでも確認できるように保管しており、解らない事は看護師・主治医・薬剤師に確認できるような体制をとっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	「退屈させない介護を」を打ち出し、職員全員で趣向を凝らしている。作業もその内の一つで、洗濯物たたみ・お皿拭き・ゴミ袋作りは毎日の日課となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自施設周辺には、コンビニ・スーパーが近くにあるため、散歩しながら買物を楽しんでいただく。という支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々のお金の管理については難しいところもありますが、施設立替金を利用して、お金の所持・使う事の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の要望があれば、家族との連絡の為に電話を使用する事もある。手紙に関しては、出来る方が少なく、2月に1度、職員が各家族に写真やお手紙を送ることを進めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の生活の場。という事もあり、時にはリラックスしていただけるようソファーを利用したり、季節を感じていただく為、その季節の飾りつけをして変化を感じていただく。そういう空間を心掛けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれの個性を大切にす為、または友達作りがしやすくなるように、席替えも時々行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく今まで使用していた、馴染みのあるものを置いていただけるように入居時にお願いしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険な空間にならないように、テーブル・イスの配置は勿論ですが、個々に使用している歩行器や車椅子の置く場所にも配慮するよう努めている。		